



事務所 伊那市西町5016-2 TEL(72)0077 例会日 毎週木曜日 会場くぬぎの杜 TEL(78)1121
 会長 荒木康雄 幹事 向山賢悟 会報委員長 唐木 拓 第2979回 2023.2.2 No.1640



2022-23 年度 RI テーマ

IMAGINE ROTARY

I G M 例 会

時間：18：30～ 於：北野屋

会 長 談 話 荒木康雄会長

本日は、昨年11月に続き今期二回目の「IGM例会」を開催いたします。

前回のグループミーティングは、久しぶりに会員同士がざっくばらんにコミュニケーションを図れ、お互いをより良く知る機会が持てたとの声を多く頂きました。

RI第2600地区2022-2023年度上沢広光ガバナーは、地区方針として「職業奉仕の発表会」と「友達作り」を掲げています。本日のIGM例会を通じてお互いの職業観や趣味、経験などを語り合い親睦を深めて頂きたいと思っております。また、次年度に向けての要望やご意見などを是非お聞かせ下さい。有意義で楽しい例会になることを願っています。

本日、語り合っ頂きたいのは次の2つです。

○テーマ1：「自己紹介による情報交換と交流」

自己紹介として職業観や趣味、経験などを語り、懇談を通じてお互いをより良く知る機会として下さい。

○テーマ2：「次年度に向けての要望・ご意見」

①例会について（時間、回数、内容など）

②次年度への要望

5月8日より、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に移行されることが正式に決定されました。この3年半の間、何かと活動が制限されてきましたので、次年度に向けて出して頂き、奉仕を通じて社会に貢献し魅力

ある楽しいクラブづくりに繋げていければと考えます。

A 班 ◎平出吉範 ○鈴木正比古 荒木康雄
 小林孝行 山崎秀亮

①例会について

- ・会場で食事をする事を前提として、以前の開催時刻である12：30より概ね一時間の開催に戻せないか検討いただきたい。
- ・普段の例会では会員の親睦がなかなか図れない状況もあると思われるので、現状2か月に1回(年6回)程度行っている夜間例会を年9回程度に増やし、段階的に月1回(年12回目安)に増やすことは出来ないか検討いただきたい。

②次年度への要望

- ・創立60周年に関してはコロナ渦の中、会員旅行もままならない状態だったが創立65周年に向けて周年記念会員旅行等の検討・計画を次年度のうちに行っていただきたい。



B 班 ◎唐木 章 ○本田敏和 飯島松一
中川博司 宮下金俊

①例会について

- ・コロナの状況もありますが、会場で昔みたいに食事をしたい
- ・年末家族会をやってもらいたい
- ・回数、内容は今のままで良い

②次年度への要望

- ・インターアクト
- ・ローターアクト
- ・青少年交換
活発な活動が行えるようにもう一度考えてみたらどうか？
- ・中川会員に卓話をお願いして、上記議題についての勉強会、理解を深める場を設けてはどうか？
- ・社会貢献活動として手弁当でバレーボールのコーチを務める飯島会員の卓話を聞きたい
- ・各行事にアイデアを出すのはいいことで、それを形にしていくことが大事
- ・海外の留学生を援助する基金はあるが、地元の学生を助ける手段がないか？
伊那ロータリー独自の基金を立ち上げてはどうか？



C 班 ◎小林句子 ○唐澤洋祐 笠井俊朗
藤澤秀敬 山田 益

①例会について

- ・みんなで昼食を取りながら例会ができるようにして欲しい。
- ・昼食が取れるようになれば、時間を作ることができるため、女性会も活発になる可能性がある。
- ・昼食を取ることができるのであれば、例会の開始時間を早めることも検討した方が良い。
- ・オンライン出席の制度を継続して欲しい。

- ・例会の回数は通年どおりで良い。
- ・ニコニコボックスから会員スピーチを実施することは継続して欲しい。
- ・ロータリー杯に変わるような青少年奉仕事業を実施するよう検討して欲しい。
- ・親睦第一なので、楽しい例会を増やして欲しい。
- ・年末家族会のような家族例会を実施して欲しい。

②次年度への要望

- ・全体旅行、会員増強を検討して欲しい。



D 班 ◎小松献臣 ○八木沢真 唐木 拓
三澤 聡 小河節郎

①例会について

- ・昼食を会場で食べたい
- ・お弁当を持ち帰ると 13 時を過ぎる。食べる時間がない
- ・ウィズコロナで夜の例会を開催してほしい
- ・雑談が重要。会員間のコミュニケーションの場を増やしてほしい
- ・趣味の例会の開催を（ゴルフ以外も）
- ・例会の回数は月 2 回程度でいいのではないか

②次年度への要望

- ・留学生だけでなく、地域の若者の支援を
- ・会場を伊那の中心部にしてほしい。少し遠い
- ・年代の融合を。若い世代とシニア世代の交流が薄い

